



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年10月26日

上場会社名 養命酒製造株式会社 上場取引所 東名
 コード番号 2540 URL <http://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塩澤 太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役上席執行役員 (氏名) 齊藤 隆 (TEL) 03-3462-8138
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月31日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の業績 (平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	5,170	△0.1	168	141.9	341	41.1	242	45.5
30年3月期第2四半期	5,177	△8.0	69	△86.6	241	△65.1	166	△66.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	17.67	—
30年3月期第2四半期	12.16	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	50,050	42,953	85.8
30年3月期	47,318	41,454	87.6

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 42,953百万円 30年3月期 41,454百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	—	—	40.00	40.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の業績予想 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,300	6.0	590	13.3	890	7.3	620	△61.6	45.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期2Q	16,500,000株	30年3月期	16,500,000株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	2,764,386株	30年3月期	2,772,257株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期2Q	13,731,555株	30年3月期2Q	13,720,939株

(注) 当社は「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式は、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢が改善する中、景気は緩やかな回復基調が続いたものの、個人消費は力強さを欠き、通商問題や海外経済の不確実性、相次ぐ自然災害等により、引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社の関連業界におきましても、節約志向、業種業態を越えた企業間競争の激化が続き、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社は、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、新たな中期経営計画(2018年4月～2021年3月)を策定し、「ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する」という事業ビジョンに基づき、「持続的成長に向けた事業基盤の構築」を基本方針として「選択と集中」「スピードと効率」「コスト管理の徹底」「経営基盤の強化」の基本戦略を推進し、「養命酒の売上回復」と「酒類食品分野の伸長カテゴリーへの注力」により事業の拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

当第2四半期累計期間の業績は、売上高が5,170百万円(前年同四半期比0.1%減)となりました。利益面につきましては、経費節減に努め、営業利益は168百万円(前年同四半期比141.9%増)、経常利益は341百万円(前年同四半期比41.1%増)、四半期純利益は242百万円(前年同四半期比45.5%増)となりました。

セグメント別には以下のとおりです。

① 養命酒関連事業

養命酒関連事業の売上高は4,983百万円(前年同四半期比1.0%減)となりました。

<養命酒>

国内における「養命酒」につきましては、昨年6月改正酒税法施行後の販売環境の変化を受け、小売店での店頭販売促進活動に注力し、店頭陳列の強化をはじめ、各種販促物の設置等に取り組むとともに、新たな販売チャネルとして保険薬局の開拓を強化しました。また、新規顧客の獲得と継続飲用者を維持するため、幅広い年齢層に向けてテレビスポット広告等の各種広告を実施しました。売上高は、3,787百万円(前年同四半期比1.6%減)となりました。

海外における「養命酒」につきましては、商品理解の促進と購買意欲の向上を目指し、主要輸出先(台湾・香港・マレーシア・シンガポール)の市場環境に即した販売促進活動を実施しました。売上高は、115百万円(前年同四半期比21.4%増)となりました。

以上の結果、「養命酒」全体の売上高は3,903百万円(前年同四半期比1.0%減)となりました。

<その他商品・サービス>

「ヘルスケア」につきましては、「養命酒製造の黒酢」の保険薬局取扱店舗数の拡大に取り組ましました。「ヘルスケア」の売上高は57百万円(前年同四半期比88.4%増)となりました。

「酒類」につきましては、「フルーツとハーブのお酒」のコンビニエンスストアでの定番化や新規採用に向けた営業活動に取り組ましましたが、前年同四半期にコンビニエンスストア向け初回一斉出荷があったことから前年同四半期を下回りました。また、収益改善を意識した販売活動に取り組ましました。「酒類」の売上高は、前年同四半期を下回り380百万円(前年同四半期比10.4%減)となりました。

「食品」につきましては、「グミ×サプリ」が販路拡大に向けドラッグストア、スーパーマーケット等への営業活動に取り組み、前年同四半期を上回りました。また、新商品「養命酒製造のど飴」を出荷しました。一方で、「食べる前のうる酢ビューティー」等お酢飲料が前年同四半期を下回りました。「食品」の売上高は、289百万円(前年同四半期比5.8%減)となりました。

「リテール」につきましては、「くらすわ」、「養命酒健康の森」の売上が堅調に推移しました。「リテール」の売上高は352百万円(前年同四半期比6.7%増)となりました。

以上の結果、「その他商品・サービス」全体の売上高は1,079百万円(前年同四半期比1.2%減)となりました。

② その他

不動産賃貸と鶴ヶ島太陽光発電所の売上を合算し、売上高は187百万円(前年同四半期比32.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ2,731百万円増加し、50,050百万円となりました。これは主に現金及び預金が843百万円、長期預金が400百万円それぞれ減少した一方で、有形固定資産が賃貸用不動産の取得等により1,484百万円、投資有価証券及び関係会社株式に含まれる保有株式が時価評価の増加等により2,572百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ1,231百万円増加し、7,096百万円となりました。これは主に流動負債のその他に含まれる未払費用が373百万円、保有株式の時価評価の増加等により固定負債のその他に含まれる繰延税金負債が779百万円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ1,499百万円増加し、42,953百万円となりました。これは主に四半期純利益242百万円の計上及び配当金550百万円の支払により利益剰余金が307百万円減少した一方で、その他有価証券評価差額金が1,791百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ2,043百万円減少し、1,830百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、531百万円の収入(前年同四半期比57.6%増)となりました。これは主に税引前四半期純利益338百万円、減価償却費288百万円等の増加要因と、法人税等の支払額82百万円等の減少要因によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,026百万円の支出(前年同四半期比100.5%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1,706百万円、投資有価証券の取得による支出300百万円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、548百万円の支出(前年同四半期比0.4%減)となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の業績予想につきましては、平成30年10月10日に発表いたしました通り、売上高11,300百万円、営業利益590百万円、経常利益890百万円、当期純利益620百万円となる見込みであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,234,447	7,390,802
売掛金	2,415,890	2,851,265
有価証券	800,085	1,000,266
商品及び製品	475,428	390,882
仕掛品	117,986	135,243
原材料及び貯蔵品	1,013,856	1,013,406
その他	128,539	211,560
流動資産合計	13,186,233	12,993,426
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,248,710	4,071,912
その他(純額)	3,246,082	3,907,516
有形固定資産合計	6,494,792	7,979,428
無形固定資産		
	298,939	271,338
投資その他の資産		
投資有価証券	19,807,388	20,678,031
長期預金	3,700,000	3,300,000
その他	3,839,483	4,836,341
貸倒引当金	△8,414	△8,340
投資その他の資産合計	27,338,457	28,806,032
固定資産合計	34,132,190	37,056,799
資産合計	47,318,423	50,050,226
負債の部		
流動負債		
買掛金	272,452	237,811
未払法人税等	79,708	76,420
賞与引当金	214,260	203,886
その他	851,752	1,286,465
流動負債合計	1,418,173	1,804,583
固定負債		
役員退職慰労引当金	48,350	48,350
その他	4,397,755	5,243,331
固定負債合計	4,446,105	5,291,681
負債合計	5,864,278	7,096,264

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	690,705	720,938
利益剰余金	37,480,062	37,172,381
自己株式	△4,975,884	△4,990,196
株主資本合計	34,844,883	34,553,123
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,609,587	8,400,838
繰延ヘッジ損益	△325	-
評価・換算差額等合計	6,609,261	8,400,838
純資産合計	41,454,144	42,953,961
負債純資産合計	47,318,423	50,050,226

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	5,177,837	5,170,987
売上原価	1,943,250	1,892,069
売上総利益	3,234,586	3,278,917
販売費及び一般管理費	3,165,083	3,110,788
営業利益	69,502	168,128
営業外収益		
受取利息	19,161	19,214
受取配当金	147,803	147,974
その他	13,163	13,180
営業外収益合計	180,129	180,370
営業外費用		
支払利息	7,145	7,232
その他	687	141
営業外費用合計	7,832	7,374
経常利益	241,799	341,124
特別損失		
固定資産除却損	11,748	2,393
特別損失合計	11,748	2,393
税引前四半期純利益	230,051	338,731
法人税、住民税及び事業税	55,000	81,000
法人税等調整額	8,205	15,027
法人税等合計	63,205	96,027
四半期純利益	166,846	242,703

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	230,051	338,731
減価償却費	304,300	288,538
貸倒引当金の増減額(△は減少)	-	△74
賞与引当金の増減額(△は減少)	△13,974	△10,374
受取利息及び受取配当金	△166,965	△167,189
支払利息	7,145	7,232
有形固定資産除却損	11,748	2,393
売上債権の増減額(△は増加)	105,059	△435,294
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,423	67,739
仕入債務の増減額(△は減少)	△114,165	△34,641
未払費用の増減額(△は減少)	188,921	378,335
未払消費税等の増減額(△は減少)	△54,542	64,444
その他	△181,180	△40,265
小計	313,975	459,574
利息及び配当金の受取額	166,216	166,903
利息の支払額	△11,860	△12,056
法人税等の支払額	△131,039	△82,911
営業活動によるキャッシュ・フロー	337,292	531,509
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,000,000	△1,100,000
定期預金の払戻による収入	800,000	800,000
有価証券の償還による収入	800,000	300,000
有形固定資産の取得による支出	△415,165	△1,706,280
無形固定資産の取得による支出	△195,664	△20,635
投資有価証券の取得による支出	△74	△300,079
その他	-	380
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,010,904	△2,026,615
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,050,000	700,000
短期借入金の返済による支出	△1,050,000	△700,000
自己株式の取得による支出	△171	△119,013
自己株式の売却による収入	-	118,948
配当金の支払額	△550,771	△548,455
財務活動によるキャッシュ・フロー	△550,943	△548,521
現金及び現金同等物に係る換算差額	64	△17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,224,491	△2,043,644
現金及び現金同等物の期首残高	2,878,118	3,874,447
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,653,627	1,830,802

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。